

序

「画像診断に絶対強くなるワンポイントレッスン～病態を見抜き、サインに気づく読影のコツ」の発刊から早4年近くの歳月が経った。お陰さまで好評をいただくことができたが、本書はその第二弾として「レジデントノート」誌2013年5月号～2015年9月号までの間に「画像診断ワンポイントレッスンPart2」と題して連載された15本の原稿をベースとし、それに新規原稿を3本追加して(Lesson3, 9, 13)、一冊の書籍としてまとめた。第一弾の書籍と同様、研修医、若手放射線科医、指導医の3者のカンファレンス形式の会話を楽しみながら読んでいくうちに、自然と画像診断の重要ポイントが身につくように構成されている。内容的には第一弾の書籍で触れられていなかった領域を主体に執筆しており、第一弾の書籍と本書の両方をご愛読いただくことで、より幅広い画像診断の知識が身につくようになっている。具体的には縦隔の画像診断に力を入れ(Lesson4～6)、また肺水腫とARDS(Lesson1)、心臓(Lesson7)、乳腺(Lesson8)、頸部(Lesson13)、脊椎(Lesson12)、尿管結石(Lesson10)、vascular compression syndrome(Lesson9)といった具合である。また間質性肺炎に関しては、第一弾の書籍発刊後にガイドラインの改訂があったため、その変更点を中心に新規原稿を作成した(Lesson3)。さらに特定の解剖領域ではなく画像診断の総論的な内容にも力を入れ、PET-CT(Lesson17, 18)、拡散強調画像(Lesson16)、外傷の全身CT(Lesson14)、周産期と画像診断(Lesson15)といった内容にも取り組んだ。幅広く、多角的な観点から画像診断のポイントを身につけていただくことを目標としている。

また第一弾の書籍と同様に、「知っておくと役立つ!! ポイントINDEX!」と題して「画像解剖のポイント」、「画像診断のポイント」、「知っておきたいサイン」、「知っておきたい病態」の4項目に絞って本書に登場する読影に役立つポイントを一覧にまとめた。“もう1つの索引”として本書で知識をまとめたり復習するのにご活用いただければ幸いです。

本書が画像診断に興味を持っていただく足掛かりの本として、またすでに画像診断に興味をお持ちの先生方はその知識や造詣を深める本として、また一度読破していただいた後は、各々の臨床現場にて画像解剖アトラスや病態/サインを参照

する座右の書として、多くの先生方にご活用いただけることを願っております。

2016年1月

扇 和之

研修医の頃、画像診断の勉強を始めてみたものの、大半の教科書は放射線科医や各領域のエキスパートに向けて書かれており、レジデントの目線から実践で直ぐに役立つような本の必要性を強く感じた。これが本書を執筆しようと思ったきっかけである。

本書は重要性の高い疾患に絞って指導医との会話形式で書かれており、初学者でも読みやすい。また各章が独立しているため、好きなところから読み始めることができる。ローテート中の科で必要な部分だけを“つまみ食い”するのも良いだろう。

また、美しいシェーマを数多く掲載しているのも本書の特徴といえる。異常所見を見つけるには正常像を頭に入れておく必要があるが、解剖から勉強を始めると無味乾燥で面白くない。一方、病態を先に理解したうえで、なぜその解剖が重要なのかという観点で迫ると途端に理解が深まる。本書はこのアプローチをとっており、縦隔、冠動脈、乳腺、腹部血管、泌尿器、骨盤、脊椎、頭頸部など幅広い領域を網羅している。

さらに今回は“周産期と被ばく”、“拡散強調画像の応用”などの見落としがちなテーマに加え、“PET-CT”、“外傷評価のFACT”、“間質性肺炎分類の改訂”など最近の話題についても触れているため、研修医だけでなく放射線科医が知識を整理するのにも役立つ。

前作の「画像診断に絶対強くなるワンポイントレッスン」に続き本書が出版に至ったのは望外の喜びで、執筆の機会を与えてくださった扇先生、いつも素晴らしい編集とシェーマ作成をしてくださる羊土社編集部の保坂早苗氏や吉川竜文氏をはじめ多くのスタッフの方々に厚く御礼申し上げます。

本書が画像診断への苦手意識を払拭し、読影に興味を持つきっかけの1つとなれば幸いです。

2016年1月

堀田昌利